事例No.	1326
公表年度	H30
団体の属性	町村
団体名	鹿児島県肝付町

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・移住定住 ・地域運営組織

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

ウチノウラキモツキ共和国国民との関係構築事業

出典

平成30年度「「関係人口」創出事業」モデル事業調査報告書

13. 鹿児島県肝付町　ウチノウラキモツキ共和国国民との関係構築事業（事業パターン（１）①）

13.1 地域の特徴と事業のねらい

(1) **地域の特徴**

本町は、人口の減少により過疎地域にも指定されており、地域活力や集落機能の低下が懸念されているものの、他都市にはない資源としての JAXA 内之浦宇宙空間観測所を有しており、それに関する取組や産業振興を進めることで地域活力の低下を抑えることができる可能性がある。

民間ロケット開発が全国各地で進められている中で、肝付町が今後そのような民間企業等を誘致するための魅力を高め、発信していくことができるかが課題となる。

(2) **事業のねらい**

1）解決したい地域課題

肝付町には JAXA 内之浦宇宙空間観測所という他都市にはない資源を有し、それを活用した取組等を進めてきた。しかし、地域の少子高齢化が進み、宇宙に関するまちづくり活動の継続が課題となっている。このため、肝付町における宇宙のまちづくりを担う組織として「きもつき宇宙協議会」を組織し、「ウチノウラキモツキ共和国」という仮想国家を設定、国民（宇宙ファン）を広く募集している。鹿児島県内の各地からの 7 人とともに様々な取組を進めている。 きもつき宇宙協議会においても人材不足、資金不足という課題に直面しており、それを町外から支えることのできる人材としての関係人口の創出に取組む必要がある。

2）地域課題を将来どのようにしたいか（アウトカム）

「国民、一般層を含めた交流の機会づくり」のために、肝付町や国民制度の積極的な情報発信を行い、観光振興（観光プログラムの造成等）や定住化の基盤づくり（空き家調査、空き家改修等）を進めることで、「宇宙関連産業の振興と定住化に向けた取り組み」を行うために、移住定住に向けた情報発信や、宇宙・IT 関連の民間企業誘致、産業振興の取組を進めたい。

3）前述の地域課題を今年どのようにしたいか（アウトプット）

これまで募集した国民である宇宙ファンとのつながりを強化し、より積極的に肝付町における宇宙のまちづくりに関わる国民を発掘する。そのために、国民になることのメリットや国民として担ってほしい役割等を、国民への意向調査や国民交流イベント等を通じて把握・分析する。

13.2 事業内容

(1) **関係人口を募る仕組み**

関係人口としての「ウチノウラキモツキ共和国」国民の属性（年齢層、居住地、連絡先等）の整理・把握を行った。その結果、30～60 歳までのミドル世代が半数を占めていることが分かった。また、国民の居住地としては、鹿児島県が最も多く 269 名、次いで福岡県が 71 名と九州地域が大半を占めた一

方で、東京都や神奈川県等の JAXA 関連施設がある都市も多いことが把握できた。今後、関係人口を募る上でターゲットとすべき年齢層や地域分析を行うことができた。

1）「ウチノウラキモツキ共和国」国民の属性分析事業

共和国国民の登録にあたっては、基本的に「ウチノウラキモツキ共和国 Web サイト」から登録する流れとなっている。既に管理ツールから国民の「氏名」「性別・年齢」といった個人属性や「住所」「連絡先」といった国民の居住地の把握や今後国民にコンタクトするための情報、「国民になるにあたっての意気込み」という想いを情報として収集している。今後、国民との双方向のコミュニケーションを行っていくために、既存データの整理・分析を行った。

実施の結果、既存国民 688 名の国民の居住地分析することにより、全国各地にファンがいることを把握することができた。また、特に九州における国民が多いという結果を得たことから、関係人口としてつながる方策を検討することができた。国民リストを把握すると、住所や連絡先（メール、電話）が変更されている場合も多く、リスト更新ができていないことを把握した。

(2) **継続的なつながりに向けた取組**

国民に向けた意向調査や国民交流イベント（We Love Kimotsuki Rocket Party in FUKUOKA）を開催し、国民の属性や国民制度や宇宙のまちづくり活動に関する連携意向を把握した。また、国民交流イベントでは、肝付町、きもつき宇宙協議会と国民及び国民同士が「顔の見える関係」となり、今後、連携して取り組むことのできる宇宙のまちづくり関連の取組アイデアの共有を行った。また、事業終了後も福岡在住の国民による自主イベントの開催（平成 31 年 3 月 9 日）も決定した。

1）国民の意向調査

国民属性の整理・分析を行ったのち、国民の満足度や求めているインセンティブ、今後の肝付町への関わり方を把握するための意向調査（アンケート調査を想定）を行った。調査対象を既存国民として、インターネットアンケートと郵送形式のアンケート調査という 2 段階方式での調査を実施した。

調査の結果、全国の国民から約 4 割（262 通）のアンケート回収を行うことができた。アンケート回収率（約 4 割）からも国民の関心の高さを伺い知ることができた。また、ネガティブな意見を含め、今後の国民制度等の課題を把握することができた。さらに、アンケート調査の中で、国民はロケット打上げをみるだけではなく、スタッフとして打上げを応援したいという意向が最も高いことを知り、打上時の連携方策を見出すことができた。（関係者：きもつき宇宙協議会）

2）国民との交流イベント「We Love Kimotsuki Rocket Party」の開催

肝付町・協議会と国民が接点を持つ場として国民との交流イベントを都市圏（福岡県内）と肝付町にて実施した。単なる交流イベントにするのではなく、肝付町と継続的なつながりを持つことが出来るプログラムを検討し、「肝付町・協議会×国民」もしくは、「国民×国民」というつながりを創出を目指した。また、実施内容は、広く国民等に周知することを目的に実施概要等を参加者等に後日送付した。

（具体的な実施内容）

国民同士、国民と肝付町との交流の場として福岡在住の国民を対象に「We Love Kimotsuki Rocket Party in FUKUOKA」を福岡にて 2 回開催した。また、平成 31 年 1 月 18 日のイプシロ

ンロケット 4 号機の発射にあわせ、国民交流イベント参加者 5 名と肝付町の宮原ロケット見学場（IHI スペース・ポート）においてきもつき宇宙協議会ブースの支援、打上げ現地レポート等を実施した。

福岡において国民交流イベントを開催することへのニーズの高さを把握することができた。今回参加できなかった方も含め、「今後の開催」を望む声は少なくなかった。また、肝付町への想いを持った国民から今後実施したい取組のアイディアを把握することができたとともに、いくつかのアイディアについては今後実現するために必要なこと等についても検討することができた。

また、肝付町における打上げでは、福岡における交流イベント参加者 5 名とともに、きもつき宇宙協議会と連携した取組を行うことができた。また、打上げに参加した国民に現地レポートをしてもらい、平成 31 年 3 月 9 日に打上げ応援参加報告会を実施することが決まっており、次のアクションを描くことができた。

国民は、普段の生活の中で、ロケット好き、肝付町が好きなコミュニティに出会うことができていない人もおり、このイベントの重要性を改めて気づかされた。また、国民同士の情報交換のニーズもあったため、福岡在住の国民の Facebook グループページを立ち上げ、事業終了後も継続的に集まることができる体制づくりを行った。（関係者：きもつき宇宙協議会、肝付町役場）

3）きもつき宇宙協議会の運営

本事業の実施主体となる「きもつき宇宙協議会（協議会は、会長を除くメンバーは町外の国民で構成／基本は鹿児島県内）」において、関係人口としての共和国国民のターゲットや連携方策、国民への意向調査内容及び、国民との交流イベントの企画や運営等に関する検討を行った。

平成 30 年 7 月から平成 31 年 2 月の約 8 か月にかけて合計 6 回の協議会を開催した。本事業のテーマである関係人口の創出の目的や創出の方法、ターゲット設定をはじめ、そのために実施する意向調査や国民交流イベントの企画や運営に関わる役割分担等に関する検討を行った。

具体的には、以下の日程・内容で協議会を開催した。

- 第１回（7／31）：事業キックオフ／事業の目的等の確認
- 第２回（8／29）：事業の位置づけ、ターゲット／意向調査の内容
- 第３回（9／26）：意向調査の最終確認／交流イベントの実施概要
- 第４回（10／31）：意向調査速報／イベントの最終確認
- 第５回（11／27）：第１回イベントの結果共有／第２回イベントの実施概要
- 第６回（2／15）：事業の実施結果共有／次年度以降の動き

本事業と並行して進めていた協議会の独自事業とのスケジュールが折り合わず、本事業のスタートが遅れてしまったが、肝付町における宇宙のまちづくりを進めるきもつき宇宙協議会（メンバー：7 名）が主体的に事業を進めるために、肝付町企画調整課や民間事業者等と連携し、進捗状況等を共有する場をつくることができた。また、きもつき宇宙協議会自体が、鹿児島県内居住の国民（＝関係人口）の集まりであり、本事業と協議会で今後進めていく事業内容のすり合わせを含め、協議する場づくりを行うことができた。

国民募集やプロモーション活動を積極的に実施していたもの、国民募集等をする目的の議論ができていなかったことが判明した。本事業に取組んだことで、関係人口としての国民の募集を行う目的や国民との連携方策等を考えるきっかけとなった。（関係者：きもつき宇宙協議会、肝付町役場）

13.3 成果分析

(1) 事業参加者に対するアンケート等の結果及び分析

1）地域との継続的な関わりの意向

アンケート調査や交流イベントを通じて、特典等の見返りではなく「肝付町を応援したい」という国民も多く存在すること、イベントスタッフやグッズ制作等で積極的に宇宙のまちづくりに協力したい国民がいること、肝付町を応援し続けたいという意向が多いこと等、ニーズの詳細が把握できた。

また、「顔の見える関係」になったことがイベントの満足度向上につながり、キラーコンテンツであるロケットを語り合える「仲間づくり」の場にできたことが、国民交流イベントへの継続的参加を望む国民が大半にのぼった大きな要因の 1 つと考えられる。

2）受入れ体制等の充足度合い

今後に向けて、国民リストの更新手段を検討し、場合によっては双方向的なコミュニケーション手段の構築が必要であり、活動の初動期は、町財源等の活用・その後組織体制の変更に合わせた自主財源の創出も検討していく必要がある。

(2) 事業成果に対するふりかえり

1）事業の位置づけ

肝付町では、きもつき宇宙協議会を中心に宇宙のまちづくりに関わる活動を進めているところである。その一環として、「宇宙の町　肝付町」を町外にいながらも応援してくれる人として「ウチノウラキモツキ共和国国民」の募集をしているところである。そのため、これまでの国民制度は、「宇宙の町＝肝付町」を PR していく一環として国民というファンを集める活動を進めており、Web サイトやメールマガジンを通じて、情報発信を進めていた。双方向的に国民と連携・連絡するというより、一方向的に情報提供していることが多かった。

今年度事業で実施したアンケートや交流イベントを通じて、国民の中に、肝付町や宇宙のまちづくり活動に参画したい、協力したいという意向があることがわかった。今後、肝付町、きもつき宇宙協議会と国民が連携した双方向の取組を進めるため、国民はおもてなしの対象ではなく、一緒に肝付町における宇宙のまちづくりを推進するパートナーとして、位置づけが見直された。

そのためには、今後も、情報交換をするだけでなく、「顔の見える関係」を作っていくことが重要である。なお、今年度、発掘したコアな国民数名は、積極的に宇宙のまちづくりに参画してくれる国民として、今後の継続的なコミュニティ運営を行い、宇宙のまちづくりに関する取組を肝付町、きもつき宇宙協議会とともに進めていく予定である。

2）事業参加候補者のターゲティング・募集方法

ターゲット設定は、肝付町と同じ九州地域における都市部を有する「福岡県」の国民を対象とした。そのうち国民制度当初に設定した「宇宙やロケットが好きなコアファン」を対象に募集を行った。その結果として、国民の中でも、きもつき宇宙協議会や肝付町が発信した情報を頻度高く閲覧し、ロケット打ち上げを現地もしくはパブリックビューリング等で見たことのあるコア層が国民交流イベントに参加した。多く

は 40 代～60 代のミドル世代だったが、子ども連れの親子も参加していた。年齢差があっても「宇宙やロケットが好き」という共通項でつながった国民には、連帯感のようなものがあり、また、子どもの参加があることで、国民同士でのコミュニケーションにおいて、建設的、かつ、将来に希望を持った発言が引き出される効果が見られた。

(3) **今後の取組に向けた課題・展望**

1）今後の関係人口創出に向けた課題

継続的に国民とのつながりを持ち続けるために、今後も、年に一度のロケット打ち上げ応援に向けた日ごろからの「顔の見える関係づくり」、「明日からでも地域に対してできる小さなこと」を共有し、一緒に実行することのできるコミュニティを継続していくことが必要である。また、地域へのアクションに対して、地域側からの目に見える分かり易いリプライも継続のためには重要になってくる。

2）今後の対応方針

・ 「宇宙の町　肝付町」を応援し続けるコミュニティの継続

本事業で実施した「We Love Kimotsuki Rocket Party in FUKUOKA」を事業終了後も継続し、肝付町を町外で応援できるコンテンツとして醸成する。直近では、平成 31 年 3 月 9 日（土）に福岡在住の国民有志での交流イベントを開催する。その際には、今後のイベント企画の方向性やターゲット、開催スケジュールを協議し、継続的な開催を行うための準備を行う予定である。

また、本事業においては、主に福岡在住の国民をターゲットにしていたが、今後はより広く「宇宙好き」「ロケット好き」「肝付町出身」「大隅半島出身」「ロケット開発者」等の関連するキーワードの人とのネットワークづくりを行う。

・ 事業を継続させるための段階的な予算確保

活動を継続するための予算としては、まずは、第一段階として、自治体からの補助金等を活用するが、今後、きもつき宇宙協議会の一般社団法人化に伴う基金等の活用を検討する。そして最終的には、協議会の組織体制の基盤が整い、自主事業（ロケット発射時における受付窓口業務 等）を実施し、第三段階として自主財源での活動に移れるように進めたい。